

## 平成 28 年度 学校関係者評価報告書

学校法人中村学園  
静岡福祉医療専門学校  
自己点検・学校評価推進室

公益社団法人静岡県職業教育振興会による「静岡県版ガイドライン」をベースにして本学独自の自己点検・評価を実施し、まとめた平成 29 年 3 月 8 日付「自己点検・評価報告書」を元に、学校関係者評価を行いました。

なお、下記の一部の項目についてはすでに改善のための方策を実施しております。

平成 28 年度学校関係者評価委員及び事務局

<関連団体>

鳥羽 茂氏 特定非営利活動法人 静岡県ボランティア協会 事務局長

<病院関係>

柳田 和夫氏 医療法人社団 和絃会 やなぎだ眼科医院 院長  
(代理) 仲本 和弘氏 同 事務局長

<卒業生>

川崎 誠之氏 社会福祉法人 駿河会 特別養護老人ホーム晃の園 相談員兼ケアマネジャー  
榎林 崇氏 社会福祉法人 清水福祉会 特別養護老人ホーム柏尾の里 生活相談員・社会福祉士

<事務局：本学教員>

中村 徹 理事長・校長  
有賀 浩 教頭・教育部長  
中村 健太郎 教育改革推進室長代理  
富田 順子 教務課長・医療情報秘書科 学科長  
後藤 明子 子ども心理学科 学科長  
磯野 博 総合福祉学科 学科長  
三嶋 秀子 介護福祉学科 学科長

### 1. 教育理念・目標

**【現状と問題点】**

- ・建学の精神を根本の理念とし、全人教育の下、挨拶の指導、清掃指導（学びの環境を自らの手で整理する）。
- ・常に教員自らが校訓と「建学の精神」、そして創設者が残してくださった「激」を顧みて「挨拶を基調とした全人教育」に当たっている
- ・現代倫理科目においてはアクティブラーニングの手法を取り入れたグループワークも複数回行い、その成果を高めている。
- ・本学 30 年間に亘る職業教育の歴史を振り返るとともに、一つの里程標を建て、次代に向けて新たな一歩を踏み出すべく 30 周年記念事業を実施した。

	<p>(1) 創設者中村忠雄胸像設置・除幕式</p> <p>(2) 地域連携パネルディスカッション「防災と減災」</p> <p>(3) 地域交流イベント「福祉・医療・子ども分野の職業体験」</p> <p>(4) 記念講演「“夢”は自分の手でつかむ」(講師：森理世氏 ミスユニバース世界大会優勝者)</p> <p>(5) 30周年記念式典・祝賀会</p> <p>(6) 同窓会総会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少子高齢社会に即し、地域に貢献できる人材を養成している。</li> <li>・全ての学生に「笑顔」で明るい挨拶が出来るよう、学生との人間関係作りに注力した。記念事業、学生会主体イベント等、数々の学内行事を通じて、自分の学科の学生だけでなく、学年も超え、他学科の学生ともコミュニケーションを心掛けたことで「話す」「聴く」力を向上させることができた。</li> <li>・入学前指導「ステップアップレッスン」、新入生オリエンテーションを通じて早い時期から教育方針・学ぶ内容の理解を促すことができた。</li> <li>・挨拶、時間厳守、清掃などの基本について、宿泊研修等を通して概ね身につけることができ、年間を通して実行できた。</li> <li>・業界との連携(教育課程編成委員会、各種情報交換会、実習巡回時の情報交換、卒業生を囲む会等)により業界ニーズを把握し、学生の希望とのギャップを狭めるよう努めている。</li> <li>・現場における実習やボランティアの機会に、現場から直接フィードバックをいただき、学生指導に役立てている。</li> <li>・確かな理論的基盤に立脚したコミュニケーション技術・基本的人権・専門的知識と技術の習得を行い、施設・住宅で生活している利用者の安全で快適な生活を援助でき、専門職としての高い倫理観を持ったプロフェッショナルを養成する。</li> <li>・地域に根差した学校であることを念頭に、スキルアップや資格取得を明確にできるよう、丁寧な関わりを心がけた。</li> <li>・「子どもたちのこころとからだの健やかな成長を見守り、あたたかいふれあいの『心』を大切にする保育士・幼稚園教諭の育成」を目指し、学年別の教育目標を掲げている。</li> <li>・社会人基礎力については、「社会人常識マナー検定」取得を目指した。知識面では進んだが、実生活の中では、まだ十分活かしかけていない。</li> <li>・学生が自ら外部に出向きボランティアや職場体験を経験し、世界を広げた反面、参加したことに満足してしまい、自らの課題を見つけ出すには至らなかった学生もいた。</li> </ul>
<p><b>【改善のための方策】</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職業実践専門課程の位置付けについて、学生への理解・周知徹底を図り、学科の特徴をしっかりと理解したうえで、授業、学外実習、ボランティア活動に取り組むことができるよう指導していく。</li> <li>・教員自身が学生指導指針である「学生の手引き」を十分理解する。</li> <li>・学科によって今年度実施できなかった実習報告会を行うことにより、学校生活における目標の明確化と、将来像具現化への指導を徹底する。</li> <li>・学習指導方針および学年ごとの教育目標を掲げ、各担任が目標を実現させるために手立てを考えて実践する。また、目標の意識化を図るために、教室に目標を掲示したい。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学内研修時に行っている学校・学科を超越しての教員間情報交換ワークグループの回数を増やし、交流を深める。</li> </ul>
【学校関係者による評価】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT分野に端を発し、30年間余に亘って人材を輩出し続けておられる貴校の実績に敬意を表する。周年記念事業で纏められたこれまでの足跡を元に、更に変化していく次の時代の職業教育に繋げていってほしい。</li> <li>・各ホーム教室に掲示されている教育方針等に、職業実践専門課程についても学生に分かりやすく説明したものを追加されてはどうか。</li> <li>・どの分野でも、またどの仕事にも共通して求められる社会人基礎力の向上については、引き続き取り組みを強化してほしい。施設実習やボランティア活動、地域活動での経験を大切に、外部の人との関わりの中から、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を実践的に向上させることができると思う。そのような機会を一層増やしてほしい。</li> <li>・卒業生としても本学の教育理念、建学の精神、校訓について、社会に出てから、また様々な仕事上の立場で経験を積む中で、一層その重要性を認識させられている。引き続き、全人教育に力を注いでいただきたい。意識せず自然に笑顔の挨拶ができること、これは本学同窓生共通の絶対的な強みであると思う。</li> </ul>
<b>2. 教育活動</b>	
【現状と問題点】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程編成委員会を年度内2回実施。各分野関連施設や団体との密接な情報交換により、専門的職業教育内容を一層ブラッシュアップした。</li> <li>・「話せる学生」を育成するため、授業において学生が話す機会を頻繁に設けた。また、このことについては入学前事前指導「ステップアップレッスン」でも取り上げ、周知を図った。</li> <li>・成績不良者への個別指導（補講）を各期終了後（全4回）のタイミングで行い、学習意欲の喪失からのドロップアウトを防ぐことができた。結果、学校全体で退学者を大幅に減らすことができた。</li> <li>・授業の問題点に対する課題提案や改善につなげるために、前期・後期終了後（計2回）に授業アンケートを実施した。その結果に基づき、教員個々で授業点検・評価・改善を実施した。</li> <li>・資格、検定試験においては、昨年度に比べ非常に良い結果を得ることができた。</li> <li>・ビジネス文書や秘書の授業において、正しい敬語を用いてのビジネス文書の作成がなかなか習得できない学生がいる。</li> <li>・ひとりひとりの学生のレベルに合わせて指導しているが、基礎学力の差や家庭環境など、本人を取り巻く環境にも配慮しながらの指導が必要となってきた。</li> <li>・社会人等に向けて「実務者研修」「初任者研修」「国家試験対策」「キャリアデザイン研修」等、それぞれのニーズに合わせて、講座を開講した。</li> <li>・学年別に設定した目標に向けた活動が活発に行えた。学生の将来を見据え、夏季休暇を使い、幅広く福祉に関する課外活動の斡旋を行った。</li> <li>・児童施設に対する理解、保育の応用、幼児教育の基礎的知識修得を目的として活動した。</li> <li>・卒業研究では、様々なテーマについて各々が取り組むことができた。教員主導になりがちな面があった。</li> </ul>

<p><b>【改善のための方策】</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職業とキャリア科目の教育強化（アクティブラーニングを一層推進する）。</li> <li>・学生個々に応じた指導が必要であることから、個人面接を強化する。</li> <li>・読解力、判断力がつくように自分の言葉で話すこと書くことができるように訓練する。</li> <li>・正しい敬語を使うことができない学生が多いため、2年生に取り入れたレポート等のメール提出・添削、手紙文を書くトレーニングを1年生にも拡大する。また、日ごろから敬語を意識した会話をさせる。日々の授業で経験を蓄積し、学生の自信になるよう、取り組みを工夫していく。</li> <li>・地域の方に向けたボランティア的講座を実施予定。</li> <li>・永年積み重ねてきた各種の地域活動に対する関係団体からの評価は引きつづき高いので、学年、学科、学校を越えた活動として再構築していく。</li> <li>・アクティブラーニングの手法で学年・学科を超えた合同授業を実施したい。上級生のリーダーシップ、下級生の知識の向上を目指し、主体的に学ぶ環境を提供する。また、毎回のテーマを一人の教員が決め進行すること、授業終了後、授業の在り方の振り返り等、研究授業としての位置づけを兼ねて実施する。</li> </ul>
<p><b>【学校関係者による評価】</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドロップアウトを大幅に減らせたことを最も高く評価する。教育の成果はもちろんのこと、細部にまでわたる点検・評価・改善の成果であると思う。</li> <li>・様々な手法で学生が主体的に取り組める教育活動をされていることを高く評価する。またアクティブラーニングの強化は素晴らしいことだ。先進的な取り組みや成果を各界に発表されてはどうか。</li> <li>・介護現場でも敬語を正しく使えることの重要性は高い。日頃から意識して取り組んでいても、つい誤った表現をしてしまうことがある。学生に対しても学校生活や授業の中で正しい話し方を身に付ける実践を随時行ってほしい。</li> <li>・現在、実習生を現場で受け入れている中で、読む・書く力の低下を感じる機会が増えているように思う。自分たちが学生だった頃、担任の先生、科目担当の先生が放課後等、大変熱心に自主トレーニングや補講に付き合ってくれて指導して下さったことを覚えている。引き続き、情熱を持って、学生指導に当たって頂きたい。</li> <li>・専門学校の特質である地域密着の活動において、介護系の研修の機会提供や国家試験対策講座、ボランティア養成講座などを開講されたことは素晴らしいと思う。人材を増やす面からも、引き続き推進して頂きたい。</li> </ul>
<p><b>3. 学生受入れ</b></p>	
<p><b>【現状と問題点】</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職業観を身に付ける体験授業などに工夫を凝らし、学生募集に結び付けていった。その活動には学生にも参加してもらった。</li> <li>・オープンキャンパスの体験メニューに医師事務（診断書作成）や医療秘書の医学分野（医療用語、薬品知識、バイタルサイン、AED等）についての内容を盛り込んだところ、高校生の反応は非常に良かった。特に医学分野の実施回については、看護学校を検討している生徒の参加が多くみられたが、出願数には直接つながらなかった。</li> <li>・介護福祉士受験要件に「実務者研修」修了が義務化されたが、理解されていない方が多く、思うような受講者増に繋がっていなかったように感じる。</li> </ul>
<p><b>【改善のための方策】</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少子化の風になげず、魅力的な職業であることや魅力的な学校、学科であることを目指す。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療界及び医療関連の ICT 企業のニーズを調査し、新しい学科、コースとして企画する。独自性を打ち出し、新規学生獲得を目指す。</li> <li>・社会人講座の受講生増を図る。施設等を訪問し、資格の必要性やスキルアップの重要性を直接伝えるなど広報活動を活発化させる。</li> <li>・学生や卒業生にも協力を求め、オープンキャンパス、体験授業を充実させる。</li> <li>・中学や高校に出向いた出前授業に力を入れていく。</li> <li>・入国管理法改正により、福祉・介護分野の留学生の受け入れが急増することが予測される。日本語学校等とも連携・情報交換しながら、本学も受け入れに向けての環境を整備していく。</li> <li>・近郊の競合校が増えている中での学生募集に向け、広報と連携しながら、募集活動に注力する。</li> </ul>
【学校関係者による評価】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少子化の大きな流れの中、学生募集のために様々な取り組みをされていることが十分理解できる。即数字に繋がらなくとも、必ずやその成果が現れることを信じて止まない。</li> <li>・入学前の指導にあたり、それぞれの職業に求められる基礎学力を備えていることや、人と関わり合う仕事への適性について、ある程度見極め、入学準備としてレベルアップを図る必要があるのではないか。</li> <li>・中学や高校への出前授業において、当該分野の仕事の魅力を伝えたい。これについては各種関係団体も協力を惜しまない。協同して人材不足への対応を図っていききたい。</li> <li>・留学生受け入れは、時代の流れの中にあって、どうしても取り組み始めなければならない時期を迎えているように思う。</li> <li>・多くの卒業生がこの分野でリーダー的存在として活躍していること、中には起業、施設立ち上げを実践している先輩たちもいることも本学の大きな魅力や強みだと思う。卒業生も大いに活用してほしい。</li> </ul>
<b>4. 教職員組織</b>	
【現状と問題点】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員研修会に積極的に参加し、学んできたことを学生にフィードバックした。</li> <li>・パソコン操作技術等の授業を電子情報の教員が担当するなど、他学科の先生方にも関わってもらうことで、学生も緊張感を持って授業に取り組んでいる。</li> <li>・担任、副担任、実務者担当、学科長が総合的に連携して学生指導が行えた。</li> <li>・「生涯学習」「実務者研修」「対策講座」等の担当が一部教員に集中してしまった。</li> <li>・日々の学生指導や実習指導など、担任や担当が一人で抱えこまず、学科内で共有できるよう心掛けた。</li> <li>・教員の役割分担を明確にし、また、情報交換を密に取りながら組織作りに取り組んだ。保育所・幼稚園・児童福祉施設関係とそれぞれの専門に教員を分配し、業務整理を進めた。児童福祉施設には社会的養護施設と障害児施設があるが、現状一人で両方の実習を見ているため、指導が不十分である。また、その方面への就職あっせんができていないことが課題である。</li> </ul>
【改善のための方策】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学科会議や職員会議を有効に活用し、学生の課題や悩みに対して早期発見・早期対応できるようにする。対応困難な学生への支援・指導方法に関する定期的な研修を行う。特に、入学直後や実習前後、長期休講前後の時期はきめ細かな指導・対応を実践する。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の連携と意思統一を図るため、こまめな情報交換や課題の明確化、対策などを検討していく時間を設けていく。</li> <li>・研修会に計画的・積極的に参加し、現場における新しい情報を授業、学生指導に活かしていく。</li> <li>・実習の事務手続き以外にも他学科の教員と十分に関わっていき、情報を共有していく。</li> <li>・現場の実習指導では卒業生にかなりお世話になったので、今後も卒業生たちと連絡を取りながら、職業実践専門課程を活用する。</li> <li>・「学生対応」「社会人対応」の分担を明確にする。</li> <li>・社会的養護施設、障害児施設2分野の担当者を分け、より丁寧に指導を行っていききたい。</li> </ul>
【学校関係者による評価】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉・介護等の施設にあっても、スタッフ間で情報共有が大変重要な要素となっている。会議疲れを起こしては元も子もないが、教員間での意思疎通・データ共有・情報交換は是非推進してほしい。</li> <li>・福祉、医療、子ども分野の専門学校に加えて電子情報系の専門学校が同じエリアで共に教育を展開されていることも、県内では他にあまり類のないこと。差異化を図るべく、それぞれの強みを教員相互でコラボレートしてはどうか。その成果は今の時代において望まれるものになるはずだ。</li> </ul>
5. 施設・設備等	
【現状と問題点】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医事コンピュータを733教室で実施できるようソフトウェアを移設し、環境を整えた。リース契約の更新年を迎えるため(5年毎)、契約更新の手続きをした。</li> <li>・福祉、医療、子ども分野もICTが欠かせないことから、学内インターネット環境が整備されている教室を活用している。</li> <li>・指定保育士養成施設開設を目指し、さらに環境設備を進めてきた。また、学生と教員が協力し、学内掲示等も学科らしい明るい雰囲気を作った。</li> <li>・介護実習室や医療的ケアの機器を安全かつ効率的に活用している。</li> <li>・授業時間以外での自主トレーニングなど、積極的に施設・設備などを活用している学生が多い。</li> </ul>
【改善のための方策】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医事コンピュータについては、4月以降、ソフトウェアが納品されたら速やかに使用できる環境を整備する。</li> <li>・時代のニーズに合わせて介護機器を更新していく。</li> <li>・パソコン実習室は他学科、社会人と共有するため、計画的な活用を調整する。</li> <li>・子ども心理学科を本館に移動することで、より学科の特徴を環境設備に反映しやすくなる。また、同校舎内に保育所もあるため、保育現場を見ることができるところから、学生のモチベーションも高まると思われる。</li> </ul>
【学校関係者による評価】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護現場でも新しい設備導入が求められるケースも多いが、コストが嵩むことにも配慮せねばならない。一概にリニューアルを考えるだけでなく、既存の設備の活用、設備の組み合わせによる新たな利用方法等も研究されるとよいと思う。</li> <li>・パソコンやインターネット環境が十分整備されていて素晴らしい。福祉の世界においてもICT機器の活用、とりわけ種々のアプリを利用しての配布資料・掲示物の作成、プレゼンテーションへの活用の機会が大変多い。学内の設備を上手に利用され、これらのスキルを十分に身に付けてほしい。</li> </ul>

6. 学生生活支援	
【現状と問題点】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自立」への意思形成が遅く、就職活動に踏み出さない・活動範囲を広げるのが遅い、などの学生が存在する。</li> <li>・一部学生を除き、外部イベントへの参加は、活発とは言えない。</li> <li>・経済的に苦しい学生に対しては学費分納（月払い）を認めている。納付期限を十分周知しているにもかかわらず、当日に振り込む家庭が見られる。</li> <li>・経済的問題や家庭環境に問題をかかえる学生がいるため、教員の対応力の強化が必要となっている。</li> <li>・社会人基礎力を身につけ、卒業後自立した社会人になれるよう生活指導を含めて指導した。特に気になる学生については、学生の体調把握や食生活についても指導している。</li> <li>・ここに問題を抱えた学生が増えており、個別カウンセリング、日々声かけも大切にしている。</li> <li>・課題ある学生に個別指導が集中してしまった。</li> </ul>
【改善のための方策】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職活動関連イベント情報を収集し、早期に周知する。</li> <li>・採用・就職活動動向に関する調査報告等を収集し、適時に提供する。</li> <li>・「リアルな」就職活動にも、より積極的に取り組むよう指導する。</li> <li>・市町・商工会議所・商工会主催の就活準備イベント・交流会・地元企業合同説明会に参加させる。</li> <li>・若者雇用に積極的な企業を掲載する『静岡県地域企業就職情報誌 2018』の企業に、学生自ら積極的にアプローチする。</li> <li>・「自己表現力」向上対策の一つとして、「フレームワーク」の活用を指導する。</li> <li>・定期的に学生生活を振り返り、「成長実感」を獲得させるような取り組みを実施する。</li> <li>・全ての学生とより近い距離で話ができる環境を作る必要がある。</li> </ul> <p>学生生活のカウンセリングや進路に関するキャリアカウンセリングに加え、学生への総合的な対応力を教員が持てるよう、学科、学校での研修などを提案していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経理に振り込み状況を前もって把握するようにし、前日といった直前にならずに指導していきたい。</li> <li>・挨拶の励行、礼儀を弁えた対応ができるよう指導する等、学生の手引きに則った指導を心掛けるだけでなく、学生として相応しい身だしなみについて、これまで以上に徹底した指導をする。</li> <li>・個人面談において、教員が学生を尊重し話を聞く、対話をするを大切にしたい。</li> </ul>
【学校関係者による評価】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職活動そのものや、その前の段階での現場実習について、施設側も大いにサポートさせて頂きたい。</li> <li>・仕事現場においても振り返りが欠かせず、そのための記録や話し合いなどの時間を大切にしている。学生が自らの学校生活をじっくり振り返り、記録、その点検評価を行うことを是非実践してほしい。</li> </ul>
7. 管理・運営	
【現状と問題点】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な生活習慣が身につけていない学生がいる。掃除等の指導も必要。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の清掃は学びの環境を自らの手で整理するよう指導している。</li> <li>・クラス担任だけがクラスを管理・把握するのではなく、学年間及び副担任とも情報共有を行った。</li> <li>・平成 29 年 5 月末から施行される改正個人情報保護法に関するセミナー、サイバーセキュリティ対策講座に参加・研修し、その内容を学内研修で教職員全員に周知・徹底した。個人情報保護の徹底、サイバーセキュリティに対する意識向上を図ることができた。</li> </ul> <p>学科、分野、学年という 3 つの体制を元にして、職務と実務の効率化と迅速化に心掛けてきたが、滞りや偏りがいまだにあり、組織的な改善が求められる。</p> <p>科としての打ち合わせや情報交換、課題の検討について、学科長の指示で行われすぎていた。各先生方が自ら検討会の申し出が出来るようにする必要がある。</p>
<b>【改善のための方策】</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人情報保護法を遵守する。</li> <li>・実務者研修等の動向に関連する学科全ての教員が把握できるように努める。</li> <li>・教室及び共用部分について、日頃から整理整頓、清潔を保つ。定期的なチェックを実施し、不要物については速やかに処分する。</li> <li>・教育・学生指導に関する職務に加え、実習関係、社会人講座の実務に偏りや滞りがないよう、計画的・組織的な体制を整備する。</li> <li>・課題が見えた時に、学科長と二者で解決すべきことと、全体で検討すべきことを整理し、各教員が自ら問題提起できるようにしたい。</li> <li>・各学科において、教員一人一人が成長できるよう、業務割り振りについて工夫する。</li> </ul>
<b>【学校関係者による評価】</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 29 年 5 月末から新しい個人情報保護法が施行される。これまでの枠が取り払われ、あらゆる規模の団体、施設等が対象となるので、法の理解と遵守については学生にもしっかり理解させておいてほしい。</li> <li>・教育という多忙な現場の中にあっても、やはり教え手である教員の成長が重要と考える。教育活動を通しての成長に加え、学外における様々な研修や会合、イベントを通して視野を広げ、学生の教育にそれらを活かしてほしい。</li> </ul>
<b>8. 財務</b>	
<b>【現状と問題点】</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予算の編成及び執行に関する規定は、寄附行為及び経理規程に定めている。</li> <li>・予算の編成は、予算単位で事業計画と予算案を策定している。</li> <li>・予算の執行にあたっては所轄する部署でチェックする体制を構築している。</li> <li>・寄附行為に基づく監査は規定に基づき行われ、その結果を理事会及び評議員会へ報告している。</li> <li>・財務情報公開規程を整備し、所管部署を定め、開示請求に対応できる体制を整えている。</li> <li>・収益事業の一つである「離職者訓練」においては講座受託価格（入札制度）が著しく低下している。</li> </ul>
<b>【改善のための方策】</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生募集において、学生増を図るため、広報活動に一層の重点を置く。</li> <li>・産学官連携を活用しながら非 18 歳人口、社会人、留学生、地域の方々が学びやすい教育環境を整備し、生涯学習に多様に対応できる職業教育機関としての責務を果たす。</li> </ul>

	<p>・介護福祉士実務者研修制度及び介護職員初任者研修制度の募集において、集客を図るため、紙媒体、ウェブとも内容を強化し、広報活動を展開する。</p>
【学校関係者による評価】	<p>・どの分野でも若手スタッフの確保には大変苦慮している。その人材を養成され、地元への人材輩出を行っておられる専門学校への期待は絶大なもの。職場や団体と専門学校が相互に連携しながら、地域の若者に仕事の魅力を伝え、当該分野への就職を目指す学校へ進学、就職する流れを、共に強化していきたい。</p>

以 上